

# 制度変革期における保育士の資質向上のためのシステム作り

保育士の自己点検・自己評価のチェックリストをもとに

千葉武夫（聖和大学短期大学部）  
佐藤直之（京都女子大学短期大学部）  
成田朋子（名古屋柳城短期大学）  
高野陽（東洋英和女学院大学）

清水益治（神戸女子大学）  
河野利津子（比治山大学短期大学部）  
西村重稀（仁愛大学短期大学部）

## <要 旨>

本研究の目的は、①一人ひとりの保育士が自らの保育を自己点検・自己評価するためのチェックリストを作成する、②そのチェックリストをもとに全国域の調査を行い、保育士の属性による自己評価結果の違いを分析する、③その結果を活用して保育士が資質を向上するためのシステム作りの方法を提案するの3つであった。①に関しては、200項目のチェックリストを作成した。このチェックリストの特徴は、領域ごとの分析が可能な点である。②に関しては、園の設置主体、保育士の性、主任かどうか、クラス担任かどうか、勤務経験年数、過去1年間の研修回数に応じて、それぞれどのような研修が必要であるかを示した。行政としては、対象者に応じた研修を計画することが必要であることが示唆された。③に関しては、現在、試行事業の準備段階である。今後、本研究で作成したチェックリストを用いることで、その地域の保育士集団に適した研修を探ること、その集団ごとの研修を行うこと、さらにその研修の行政評価を行うことにより、地域に密着した保育士養成および研修システムの構築が可能になるとと思われる。

## <キーワード>

保育士の自己点検・自己評価チェックリスト、保育士の属性による自己評価の違い、研修、行政評価、地域密着型養成・研修システム

### 【はじめに】

児童福祉法が変わり、保育所への入所が市町村による措置ではなく、保護者の選択するところとなった。また社会福祉法（旧・社会福祉事業法）が変わり、第三者評価が努力義務として位置づけられ、各保育所に、福祉サービスの質の向上と共に利用者の選択に資する情報の提供が求められるようになった。

このような社会情勢の中で、保育所を運営する法人や市町村は、一人一人の保育者の資質向上のために何をすべきであろうか。その方策の一つとして、まずは当該保育所が第三者評価を受審することであろう。この評価では、園としての保育に対する姿勢が問われ、その結果が公表される。しかしながら、この評価は園としての結果であり、園が高い評価を得るためには、ひとえに、保育士一人一人の資質の向上にかかっている。一人一人の保育者がどのようにして力量を高めるのか、自らの課題を見つけるために何を意識し、どのように行動をとるかが問わ

れている。そこで、保育士一人一人に自らの保育を自己点検・自己評価するための作業が必要となる。

本研究では、一人ひとりの保育士が自らの保育を自己点検・自己評価するためのチェックリストを作成し、そのチェックリストをもとに全国域の調査を行い、保育士の属性による自己評価結果の違いを分析し、その結果を活用して保育士が資質を向上するためのシステム作りの方法を提案することを目的とした。

### 【方法】

(1) 調査対象 大阪、兵庫、福井、広島、岡山、愛知、栃木県下の公・私立園の保育者508名に調査に協力してもらった。

(2) 材料 民秋(2003)を参考に、200項目からなるチェックリストを作成した(付録参照)。各項目に対しては、「はい」または「いいえ」の2件法で答える形式とした。

このチェックリストの1頁目に調査依頼文とフェイスシートを付けた。フェイスシートでは①園の所在地、②園の設置主体、③主任かどうか、④クラス担当かどうか、⑤就業形態、⑥通算勤務経験、⑦性別、⑧過去1年間に受けた外部の研修回数について尋ねた。

項目に対応させた解答用紙を作成した。解答用紙は、項目番号と回答欄からなり、回答欄は「はい」の場合に○、「いいえ」の場合には×を書くように求めるものとした。さらに、回答に迷った項目については、回答番号の数字に○をつけるように求めることとした。

(3) 手続き 調査時期は平成16年12月～17年1月とした。チェックリスト(案)を含む調査票を1園につき12部郵送した(配付枚数は12枚×50園で600枚)。当該園長には、保育士資格を持つ有資格者で、専任職員の方に配付してもらうように依頼した。また、乳児担当者、幼児担当者、経験年数の浅い方、経験年数の豊かな方などを意識してくださるように求めた。

回収に際しては、調査を依頼した保育士に調査用紙を個別の封筒に入れて密封してもらい、園から一括して返送してもらうようにした。回収された調査票の枚数は508枚であり、回収率は84.7%であった。調査結果の統計処理にはSTATISTICA2000 Release5.5を用いた。

### 【結果と考察】

(1) 全体の分析 ①領域ごとの分析 表1は「はい」の割合の平均を領域ごとに示したものである。領域によって人数が異なるのは、回収された中に、当該領域の全項目に対して無回答の回答用紙があったからである。項目が異なるので、領域間の比較には意味がないが、この表から次のことが読みとれる。

表1. 領域ごとの「はい」の平均と標準偏差

領域	N	平均	標準偏差
I. 子どもの発達援助			
(1) 保育の方法・内容			
1) 養護	508	88.60	13.50
2) 健康	508	90.18	14.59
3) 人間関係	507	86.89	16.18
4) 環境	507	82.43	20.30
5) 言葉	502	85.66	16.04
6) 表現	501	81.13	20.77
7) 乳児保育	369	92.08	8.85
8) 長時間保育	427	82.49	19.22
9) 障害児保育	333	81.69	17.87
10) 子どもの人権	505	78.83	17.52
(2) 発達援助の基本			
1) 指導計画の作成	416	89.97	15.19
2) 個人記録の作成など	457	81.98	22.57
(3) 健康管理・食事	498	87.69	11.38
(4) 保育環境	500	76.69	13.71
II. 子育て支援			
1) 子育て支援	464	86.79	15.29
2) 一時保育	182	92.03	20.71
III. 地域の住民や関係機関との連携	475	76.26	21.88
IV. 運営管理	486	78.94	15.99

「乳児保育」、「一時保育」、「健康」の領域については「はい」が90%以上であった。「乳児保育」と「一時保育」は、当該事業の担当者または過去に担当した保育士だけが回答しているので、少なくとも調査した項目に関してはかなり望ましい状態であると言える。一方、「子どもの人権」、「保育環境」、「地域の住民や関係機関との連携」、「運営管理」については、「はい」が80%未満であった。

なお、これらの結果は、今後、項目を確定したり、領域間の重みづけを検討していく上で参考にできる。将来、各領域を調べる項目が確定し、領域間の重みづけが明確になれば、チェックリストに回答した保育士がどの領域に力を入れているかがわかるであろう。

②項目ごとの分析 回答者の全員が「はい」と答えた項目は、「063 絵本を見せた時、その子の指すものに応えるなど、子どもとのやりとりを楽しんでいますか」という1項目だけであった。しかし95%以上の回答者が「はい」と答えた項目は、56項目もあった。これらの項目は、ほとんどの保育士が望ましい状態にあると考えられる。そのため将来的には、これらは自己評価の項目から除外していく必要があるかもしれない。

表2は、「はい」の割合が低いものから20項目を示したものである。項目ごとにNが異なるのは、無回答の項目があったからである。上位10項目では5割以上の保育士が「いいえ」と答えていたことになる。「はい」が望ましい回答であることを考えると、これらの項目は一人ひとりの保育士に対する研修だけでなく、園全体として環境を整えて対応していく必要がある。

特に、上位2項目については、8割以上の保育士が「いいえ」と回答していた。これら2項目に共通しているのは、温度、湿度、換気など保育室の環境に関する内容であることである。保育所保育指針を見ると、6か月未満児、6か月以上1歳3か月未満児、1歳3か月以上2歳未満児の保育内容において「内容」の中に、「(10)室内外の温度、湿度に留意し、子どもの健康状態に合わせて衣服の調節をする。」という記述が共通に見られる。また3歳児、4歳児、5歳児、6歳児の保育内容における「配慮事項」の〔基礎的事項〕の中には「換気」に関する記述が共通に見られる。これらの記述からは、温度や湿度に注目する必要があるのは、2歳未満の子ども、「換気」に配慮するのは3歳以上の子どもに対するかかわりであると限定されるのかもしれないが、2割以下というのはかなり

低い値である。注意したり配慮していても、記録に残す必要性までは感じていないのかもしれない。

今後、この記録という点を強調し、保育士の養成や再教育を行う必要がある。

表2. 「はい」の割合が少なかった項目

項目	N	「はい」の割合(%)
130定期的に換気をするために、換気した時間などをチェックする表がありますか	499	15.2
131その日の温度・湿度を点検し、記録にとっていますか	494	19.8
190国や自治体の公刊物、インターネットなどで、保育関係の情報を収集するように心がけていますか	475	40.0
089あなたは、子どもの権利擁護に関する研修に参加したことがありますか	497	40.6
176児童福祉法などの関連法規を読み直すなどして、職務について理解を深めるよう努めていますか	479	41.8
170放課後遊びに来る学童が、楽しく遊べるよう心がけていますか	441	42.6
196事故や災害が発生した際に、きちんと対処できる自信がありますか	468	43.6
127調理の場面を子どもたちに見せるなど、食事に興味をもてるよう配慮していますか	485	44.5
088子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っていますか	484	47.7
046様々な楽器を楽しめるように工夫していますか	494	53.6
179自己点検・自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的にもっていますか	477	55.3
043子どもの言葉の発達の過程を、専門的な目で詳細に観察していますか	490	57.1
135子どもの寝具の消毒を定期的に行っていますか	487	57.3
033地域の公共機関を利用するなど、子どもが社会体験を得られる機会をつくっていますか	497	57.5
142食事のための場所を保育室に確保していますか	492	58.1
167園がその役割を果たすために必要な、地域の関係機関のはたらきについて知っていますか	465	59.8
141子どもが眠くなった時、安心して眠ることができる場所を保育室に用意していますか	491	59.9
106子どもの健康管理をマニュアルに基づいて実施していますか	484	59.9
199施設・設備の安全に関する点検を、確実に行っていますか	474	62.0
169地域の住民から受けた育児相談の内容について、連絡・相談すべきところを知っていますか	465	62.8

(2) クロス集計 ①領域ごとの分析 先ず、保育士が勤務している園が公立園か私立園かによって、領域ごとの「はい」の割合の平均値が異なるかどうかをt検定を用いて調べた。その結果、「環境」、「表現」、「子どもの人権」、「指導計画の作成」、「保育環境」において有意差 ( $p < .05$ 。以下同じ) があり、いずれの領域も公立園の方が私立園よりも「はい」の割合の平均値が高かった。これらの領域については、私立園が公立園を見習う必要があるかもしれない。

次に保育士の性による違いを分析した。同様のt検定を行ったところ、「養護」、「健康」、「言葉」、「表現」、「指導計画の作成」、「健康管理・食事」、「保育環境」および「子育て支援」の領域では有意差があり、女性保育士の方が男性保育士よりも「はい」の割合の平均値が有意に高かった。保育士の性は、その保育士が生まれた時点で決まっており、経験や努力によって代わるものではない。そのため保育士としての養成段階で男性の保育学生に対して、これらの領域には配慮して適切に指導することが望まれる。

次に、主任かどうかによる違いを同じt検定を用いて調べた。その結果、「個人記録の作成など」と「地域の住民や関係機関との連携」の領域では、主任の方が主任ではない保育士よりも「はい」の割合の平均値が有意に高かった。これらの領域は、主任以外の保育士の研修でとりあげる必要がある内容であろう。一方、「子

どもの人権」と「健康管理・食事」の領域では、主任の方が主任ではない保育士よりも「はい」の割合の平均値が低かった。これらの領域は、主任保育士を対象にした講座や研修でおさえる必要がある。

同様に、クラス担任かどうかによる違いを調べた。その結果、「表現」、「乳児保育」、「指導計画の作成」、「健康管理・食事」および「運営管理」の5つの領域では、クラス担任の方がクラス担任でない保育士よりも「はい」の割合の平均値が有意に高かった。クラスを担当しない保育士には、これらの領域を意識してもらうことが望まれる。

続いて、勤務形態による違いを調べた。勤務形態は、常勤、非常勤(フルタイム)、非常勤(短時間)の3つの中から選んでもらったが、非常勤(短時間)と回答した保育士が少なかったため、常勤と非常勤(フルタイム)の比較とした。先と同様の検定を行ったところ、「言葉」、「子どもの人権」、「個人記録の作成」、「健康管理・食事」、「子育て支援」、「地域の住民や関係機関との連携」の領域では、常勤の方が非常勤(フルタイム)よりも「はい」の割合の平均値が有意に高かった。非常勤(フルタイム)に研修を受けてもらうことは時間的・経済的にも困難かもしれない。しかしながら、日々子どもと接しているという点では常勤と非常勤(フルタイム)は変わらない。そのため少なくとも園内研修の中で、これらの領域を意識してもらうことが大切であろう。

通算勤務経験は、1年未満、1年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上15年未満、15年以上20年未満、20年以上25年未満、25年以上30年未満、30年以上35年未満、35年以上40年未満、40年以上の中から選んでもらった。選ばれた勤務経験年数の分布を示したものが図1である。この分布を参考に、5年未満、5～10年、10～15年、15～20年、20～25年、25～30年、30年以上の7群に分けた。

勤務経験年数の7つの群の要因として1要因の分散分析を行ったところ、「養護」、「環境」、「言葉」、「個人記録の作成」、「子育て支援」、「一時保育」および「地域の住民や関係機関との連携」の領域で有意差があった。これらの領域における「はい」の割合の平均値を群別に示したものが表3である。LSD法で多重比較を行い、他よりも有意に低かった値にアンダーラインを引きbold体で示した。

5年未満の勤務年数で「はい」の割合の平均値が低いことは、経験不足として当然のことかもしれない。しかしながら「養護」の領域で15～20年の値が低いことや「一時保育」の領域で20～25年及び25～30年の値が低いことは、研修の必要性を感じさせる。「個人記録の作成など」については15年程度の研修の積み重ねが必要なのであろう。

最後に、過去1年間に受けた外部の研修回数について分析した。西日本の地域の回答者には、

この内容を調べることができなかった。そのためこの分析は、福井、愛知、栃木県に勤務する131名の保育士の回答に基づくものである。研修回数の分布は、図2の通りであった。3回をピークとしているが、10回という保育士も12名いた。ある程度の人数を各群に集めるため、0・1回(19人)、2・3回(54人)、4～6回(31人)、7回以上(27人)の4つの群に分けた。

研修回数の5つの群を要因として1要因の分散分析を行ったところ、「一時保育」の領域でのみ有意差があった。群ごとにこの領域における「はい」の割合の平均値を示したものが図3である。この領域は、先に述べたように、当該事業の担当者として過去のこの事業を担当した者だけが回答しているため、回答人数が少ないという問題はあるが、次のようなU字型の曲線が得られたことは興味深い。すなわち、研修回数が0・1回から2・3回にかけて「はい」の割合の平均値は増加するが、2・3回から4～6回にかけて平均値は一端減少し、4～6回から7回以上へと再び値は増加するというU字型の曲線である。5回程度、研修を重ねることにより、研修の受け方や研修によって身につく内容が変わり、そのためこのように平均値が減少したのかもしれない。「一時保育」については7回以上の研修が必要であることが示唆される。

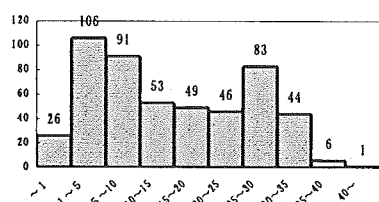


図1. 通算勤務経験年数の分布

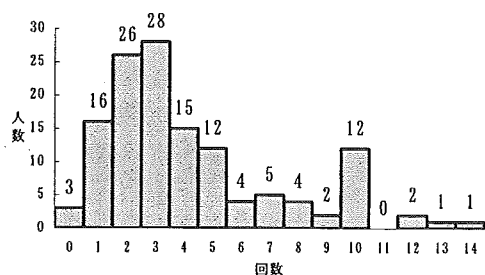


図2 外部の研修回数の分布 (過去1年間)

表3. 通算勤務経験別の「はい」の割合の平均値

領域	5年未満	5～10年	10～15年	15～20年	20～25年	25～30年	30年以上
養護	<u>85.8</u>	89.1	89.0	<u>85.2</u>	90.8	90.0	93.1
環境	<u>78.5</u>	<u>80.1</u>	82.2	82.1	84.4	87.3	87.4
言葉	<u>81.0</u>	85.8	89.6	87.4	85.1	86.7	90.4
個人記録の作成など	<u>74.6</u>	<u>79.5</u>	<u>80.7</u>	89.1	85.7	85.4	91.1
子育て支援	<u>81.8</u>	87.6	89.6	88.5	87.1	87.7	91.3
一時保育	94.1	95.4	100	95.0	<u>78.9</u>	<u>83.3</u>	95.0
地域の住民や関係機関との連携	<u>66.0</u>	75.8	78.5	82.1	79.9	79.1	87.1

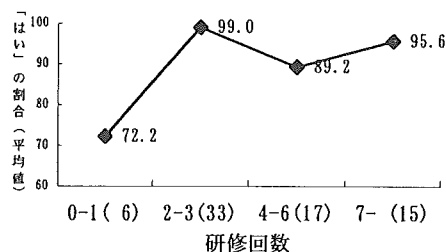


図3. 研修回数別「はい」の割合の平均値



の割合が増加する項目(186, 188, 189)、②4～6回までは「はい」の割合が増加するが、4～6回から7回以上にかけてその割合が減少する項目(49, 53, 163, 167, 174)、③0・1回から2・3回にかけては「はい」の割合が増加するが、それ以降、減少する項目(33, 78, 141, 166)、④M型で増加・減少を繰り返す項目(59, 137, 149)。

このような増減のパターンが存在することは、自己点検・自己評価を高めるためには、単に研修回数を増やせばよいというものではないことを示唆している。研修内容が適切かどうかについても検討が必要であろう。

#### 【まとめと今後の課題】

本研究の目的は次の3つであった。①一人ひとりの保育士が自らの保育を自己点検・自己評価するためのチェックリストを作成する。②そのチェックリストをもとに全国行きの調査を行い、保育士の属性による自己評価結果の違いを分析する。③その結果を活用して保育士が資質を向上するためのシステム作りの方法を提案する。

①に関しては、付録に掲載した200項目のチェックリストを作成した。このチェックリストの特徴は領域ごとの分析が可能な点である。今後、このリストにおける領域間の関係を検討すれば、一人ひとりの保育士にとってさらに役

立つ資料となるであろう。

②に関しては、園の設置主体、保育士の性、主任かどうか、クラス担任かどうか、勤務経験年数、過去1年間の研修回数に応じて、研修の内容を変える必要があることが示唆された。研修効果の測定に関しても、本研究で作成したチェックリストは活用できると思われる。

③に関しては、現在、試行事業の準備段階である。本研究では、特定地域の全数調査も実施した。その分析結果には、本報告と類似した点と異なる点があることが明らかになった。異なる点は当該地域の特色と考えてよいであろう。現在、当該地域では、その分析結果を基に、研修の実施を計画しているところである。

本研究で行政評価にもつなげるチェックリストを作成できたことは、大きな成果であろう。今後、本チェックリストが普及し、これを用いて、多くの自治体や団体、園が一人ひとりの保育士に自己点検・自己評価を求め、望ましい保育内容が展開されるようになることが今後の課題である。

#### 【引用文献】

民秋 言 2003 平成14年度財団法人こども未来財団 児童環境づくり等総合調査研究事業 「保育内容の自己評価」のためのチェックリストの見直しに関する研究 研究報告書

#### 【付録】

### 1. 子どもの発達援助

#### (1) 保育の方法・内容

##### 1) 養護

- 001 日々の記録の中に、養護面の援助や配慮を記載していますか
- 002 分かりやすい温かな言葉で、子ども一人一人におだやかに話しかけていますか
- 003 「早くしなさい」などという、せかす言葉を不必要に用いないようにしていますか
- 004 「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしていますか
- 005 子どもの要求や質問に対して「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応するようにしていますか
- 006 「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応していますか
- 007 「いや」などと、駄々をこねる子どもの気持ちをくみとろうとしていますか
- 008 登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにして
- 009 登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、や

さしく声をかけたりしていますか

- 010 休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くするなど、安心して心地よい眠りにつけるよう配慮していますか

- 011 休息时间以外でも、一人一人の状況に応じて、身体を休ませるようにしていますか

- 012 休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしていますか

##### 2) 健康

- 013 トイレに行くことを強制したり、せかしたりすることがないようにしていますか

- 014 おもらしをしたとき、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮していますか

- 015 衣服の着脱に際して、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしていますか

- 016 子どもが自分で着脱しやすいように、衣服の整理の仕方を工夫していますか

- 017 子どもが自分で着脱しやすいように、着脱の援助について工夫していますか

- 018 子どもが自ら体を十分に動かして遊べるように工夫していますか

- 019 子どもの冒険心を大切にすると、生き生きとした活動が展開できるよう配慮していますか

020 基本的な生活習慣や態度を身につけることの大切さを理解し、適切な行動がとれるように配慮していますか

### 3) 人間関係

021 子ども同士の関係をよりよくするように、あなたの言葉がけに配慮していますか

022 順番を守るなど、子どもが社会的ルール(きまり)を身につけるような機会を大切にしていますか

023 遊びのルール(きまり)を子どもたちが自らつくっていく過程を大切にしていますか

024 ケンカを、自分たちで解決するよう配慮していますか

025 人の立場を考えながら行動することの大切さについて、ていねいに伝えていますか

026 当番活動などでは、「やってみたい」という気持ちを大切にしていますか

027 異年齢の交流がしぜんな形で行われるように配慮していますか

028 身近に住んでいる人と関わる楽しさや大切さを味わうことができるよう配慮していますか

### 4) 環境

029 子どもが身近な生き物に興味・関心をもつ機会をつくっていますか

030 子どもが身近な植物に興味・関心をもつ機会をつくっていますか

031 園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用していますか

032 散歩など子どもが地域の人たちに接する機会をつくっていますか

033 地域の公共機関を利用するなど、子どもが社会体験を得られる機会をつくっていますか

034 自分のもの、他人のもの、共同のものとの区別に気づけるような機会を提供していますか

035 保育の中で手伝いをするなど、人の役に立つ体験ができるような機会を積極的に取り入れていますか

036 飼育・栽培を通して、自然の摂理の偉大さに感動するように配慮していますか

### 5) 言葉

037 紙芝居や絵本の読み聞かせのときは、その文の美しさや言葉のリズムの面白さを大切にしていますか

038 紙芝居や絵本の読み聞かせのときは、あなた自身もその内容を楽しんでいますか

039 子どもが、自分の意見をはっきり言うことのできる雰囲気をつくっていますか

040 子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮していますか

041 子どもが人前で話す機会や場面をできるだけ多くつくっていますか

042 話の結論がわかっている場合でも、最後までゆったりと子どもの話を聞くようにと努めていますか

043 子どもの言葉の発達の過程を、専門的な目で詳細に観察していますか

044 生活に必要な簡単な文字・記号などに、興味や関心をもつよう配慮していますか

### 6) 表現

045 子どもが自由に、歌をうたったり踊ったりでき

るように配慮していますか

046 様々な楽器を楽しめるように工夫していますか

047 子どもがつくったり表現したものを、お互いに見せ合ったり聞かせ合ったりするよう配慮していますか

048 子どものイメージが湧き出るように、素材、用具、玩具等を提供するなど工夫していますか

049 言葉、絵、造形、音など、子どもが最も得意な方法で、見たもの感じたものを表現することを大切にしていますか

050 子どもの表現しようとする気持ちを大切にし、特定の技能の習得に偏らないよう配慮していますか

051 道具の正しい使い方を、一人一人ていねいに教えたり、見守ったりしていますか

052 子どもがみんなで一緒に表現することのよろこびを味わえるよう配慮していますか

### 7) 乳児保育

053 授乳は、子どもの欲しがるときを尊重して行っていますか

054 抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳していますか

055 離乳食については、家庭と連携をとりながら、すすめていますか。

056 一人一人の育ちやその日の体調に合うよう離乳食を工夫していますか

057 初めての食品を食べさせた時には、皮膚や便性などに異常がないか、観察していますか

058 おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っていますか

059 一人一人のおむつを交換する度に、手洗いを徹底していますか

060 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保していますか

061 寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせていますか

062 喃語には、ゆったりとやさしく応えていますか

063 絵本を見せた時、その子の指すものに応えるなど、子どもとのやりとりを楽しんでいますか

064 たて抱き、腹這いなど、子どもが様々な姿勢をとれるよう努めていますか

065 身体を適度に動かす遊びや、リズムを伴った触れ合い遊びを十分にしていますか

066 季節や天候に応じて、戸外遊びを行うなどの機会を設けていますか

067 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮していますか

068 一人一人の子どもの出生時の状況、その後の発育・発達などを細かに把握していますか

069 子ども一人一人の健康状態などを、職員相互で確認していますか

070 一人一人の子どものいつでもやさしく対応するように努めていますか

071 一人一人の子どもの服装、頭髮、爪などの清潔に心がけていますか

### 8) 長時間保育

072 長時間保育のために、家庭的な雰囲気を作ることに配慮していますか

073 長時間保育のために、好きなことをしてくつろ

- ける空間や玩具などを整備していますか
- 074 長時間保育では、一人一人の子どもの要求に応じて、ゆったりと接していますか
- 075 長時間保育では、クラスや年齢の違う子どもとも楽しく遊べるように配慮していますか。
- 076 子どもその日の様子を、確実な方法により職員間で伝達していますか
- 077 次々にお迎えが来る中で、「ママ来ないね」などの眩きなどを受け止め、気持ちをくんで対応していますか
- 078 その日の子どもの様子が保護者に確実に伝わるように、連絡帳などの内容をいつも検討していますか

### 9) 障害児保育

- 079 園での生活の仕方について、障害児の特性に合わせた計画を立てて保育を行っていますか
- 080 障害のない子どもの障害児への関わりに対して、あなたは配慮していますか
- 081 障害のない子どもも障害児も、互いの良さを感じ取るように心を配っていますか
- 082 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けていますか。
- 083 障害児保育に関する研修を受けていますか
- 084 療育・医療機関などの専門機関から、必要に応じて助言を受けていますか
- 085 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っていますか
- 086 障害児の保護者と話し合う場などを日常的に設け、保護者への支援を心がけていますか
- 087 保護者が子どもの就学など、将来の方向を決めやすいように、相談に応じたり情報を提供していますか

### 10) 子どもの人権

- 088 子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っていますか
- 089 あなたは、子どもの権利擁護に関する研修に参加したことがありますか
- 090 「男の子だからめそめそするな」などと、子どもの態度について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか
- 091 「それは女(男)の子の色」などと、子どもの服装や持ち物について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか
- 092 「それは女(男)の子の遊び」などと、子どもの遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか
- 093 「それは男(女)の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか

## (2) 発達援助の基本

### 1) 指導計画の作成

- 094 指導計画を園の保育方針や保育計画に基づいて作成していますか
- 095 指導計画を保育所保育指針を参考にして作成していますか
- 096 指導計画を養護的側面(基礎的事項)と教育的側面(5領域)の両面を考慮して作成していますか
- 097 指導計画を作成する際に、一人一人の子どもの

発達状況に配慮していますか

- 098 指導計画を作成する際に、一人一人の子どもの興味・関心に配慮していますか
- 099 指導計画を子どもの発達の姿、興味・関心に基づいて見直し、次の計画作成に生かしていますか
- 100 指導計画のねらいや内容を保護者にわかるように説明できますか

### 2) 個人記録の作成など

- 101 現在、担当している子どもの個人記録を作成していますか
- 102 子ども個人記録に基づく情報を、その子どもに関わる他の職員と共有していますか
- 103 ケース会議や職員会議などで、あなたは積極的に発言していますか

## (3) 健康管理・食事

- 104 登園時に、一人一人の子どもの健康状態を把握し、それをその日の保育に生かしていますか
- 105 保育中の子どもの体調の変化に基づいて、保育をすすめていますか
- 106 子どもの健康管理をマニュアルに基づいて実施していますか
- 107 健康診断の結果を保護者に伝えてありますか
- 108 健康診断の結果を、その子どもに関係する他の職員と共有していますか
- 109 身長・体重などの定期的計測から子どもの発育の状況を把握して、日常の保育に生かしていますか
- 110 嘱託医による診断を、子どもの健康状態の把握や日常の保育に生かすよう努めていますか
- 111 感染症が発生したとき、発生の状況をすぐに保護者に連絡していますか
- 112 感染症が発生したとき、マニュアルに基づいて対応していますか
- 113 アレルギー疾患を持つ子どもに対して、医師から指示があった場合、その子どもの状況に応じて対応をしていますか
- 114 子どもその日の喫食状況を、保護者に知らせていますか
- 115 乳児のその日の哺乳量を、保護者に知らせていますか
- 116 食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮していますか
- 117 一人一人の子どもの状態に応じて、食べる量を加減するなどの配慮をしていますか
- 118 一人一人の乳児の状態に応じて、哺乳量を加減するなどの配慮をしていますか
- 119 残さず食べることを過度に強要しないように、配慮していますか
- 120 偏食を直そうと過度に叱ることがないように、配慮していますか
- 121 子どもが落ち着いて食事を楽しめるように、工夫していますか
- 122 食事を「楽しく、おいしく」味わえるように、食卓の雰囲気づくりを工夫していますか
- 123 バイキング方式を取り入れたり、時には戸外で食べたりするなど、様々な食事のスタイルを工夫していますか



- 124 子どもの喫食状況に基づき、できる範囲で食事内容の改善に努めていますか
- 125 子どもが食事の準備に参加して、食事に興味をもてるよう配慮していますか
- 126 子どもが食事の後片づけに参加して、食事に興味をもてるよう配慮していますか
- 127 調理の場面を子どもたちに見せるなど、食事に興味をもてるよう配慮していますか

#### (4) 保育環境

- 128 子どもが心地よく過ごすことができるよう、採光に配慮していますか
- 129 子どもが心地よく過ごすことができるよう、換気や温度・湿度に配慮していますか
- 130 定期的に換気をするために、換気した時間などをチェックする表がありますか
- 131 その日の温度・湿度を点検し、記録にとっていますか
- 132 適宜手洗い場を清掃し、清潔を保つようにしていますか
- 133 手洗い場での転倒防止や、滑り止めの対策をしていますか
- 134 適宜トイレを清掃し、不快なおいがないようにしていますか
- 135 子どもの寝具の消毒を定期的に行っていますか
- 136 子どもの寝具の乾燥に配慮していますか
- 137 砂場は、時には消毒するなど、衛生面に配慮していますか
- 138 玩具・遊具は、時には消毒するなど、衛生面に配慮していますか
- 139 子どもが不安になった時にはいつでも応じられるなど、あなたは身近にいるよう努めていますか
- 140 一人一人の子どもがくつろいで落ち着ける場所を保育室に用意していますか
- 141 子どもが眠くなった時、安心して眠ることができる場所を保育室に用意していますか
- 142 食事のための場所を保育室に確保していますか
- 143 季節にあわせて保育室のインテリアを工夫していますか
- 144 保育中の音楽など、音に配慮していますか
- 145 保育中にあなた自身の声の大きさに配慮していますか
- 146 子どもの発達段階に即した玩具・遊具・用具を用意していますか
- 147 クレヨン・粘土・紙などを、子どもたちが自由に使えるように工夫していますか
- 148 子どもが用具などを自由に取り出して遊べるように工夫していますか
- 149 子どもがそれぞれ好きな遊びができるコーナーを用意していますか
- 150 子どもが自由に遊べる時間を確保していますか
- 151 子どもの作品を工夫して飾ったり、ていねいに保存したりするなど、大切に扱っていますか

## II. 子育て支援

### 1) 子育て支援

- 152 送迎の際に保護者と会話するよう心がけていますか
- 153 連絡帳は保護者がその内容をよく理解でき、毎

日読むのを楽しみにするような書き方をしていますか

- 154 一人一人の保護者と、必要に応じて個別に面談を行っていますか
  - 155 保護者が育児の悩みや心配事を安心して話せる存在になるように、あなたは心がけていますか
  - 156 保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録していますか
  - 157 保護者の考えや提案を積極的に聞き、適切と思うものについては保育に取り込むように努めていますか
  - 158 育児について、保護者と共通理解を得るための機会を設けていますか
  - 159 不自然な表情や傷、衣服の汚れなどに気づき、虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めていますか
  - 160 虐待を受けていると疑われる子どもについての情報を得たときには、速やかに園長に報告する園の体制を理解していますか
  - 161 虐待への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う園の体制を理解していますか
  - 162 地域の子育て家庭を対象とする育児相談など、子育て支援のための園の取り組みを、理解し協力していますか
  - 163 地域の保育ニーズを把握しようと努めていますか
- ### 2) 一時保育
- 164 一人一人の子どもの心身の状態を考慮して、一時保育を行っていますか
  - 165 一時保育では、一人一人の子どもの保護者と十分にコミュニケーションをとっていますか
  - 166 一時保育は、通常保育とのつながりを配慮しながら行っていますか

## III. 地域の住民や関係機関との連携

- 167 園がその役割を果たすために必要な、地域の関係機関のはたらきについて知っていますか
- 168 子ども医療や保健に関する問題について、連絡・相談すべきところを知っていますか
- 169 地域の住民から受けた育児相談の内容について、連絡・相談すべきところを知っていますか
- 170 放課後遊びに来る学童が、楽しく遊べるよう心がけていますか
- 171 園の周辺の住民と良好な関係を築けるよう、日常的な挨拶などを心がけていますか
- 172 中高生などの保育体験を受け入れるときには、その意義や方針を理解・確認していますか
- 173 実習生を受け入れるときには、意義や方針を理解し指導的立場にあることを意識していますか
- 174 ボランティアを受け入れるときには、その意義や方針を理解・確認していますか

## IV. 運営管理

- 175 園の保育理念や基本方針を日々の保育活動に生かしていますか
- 176 児童福祉法などの関連法規を読み直すなどして、

- 職務について理解を深めるよう努めていますか
- 177 保護者に、園の保育理念や基本方針を理解してもらうよう努めていますか
- 178 会議などでは、子どもの最善の利益を第一に考えて、発言していますか
- 179 自己点検・自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的にもっていますか
- 180 自分の保育についての課題を具体的に見つけようと努めていますか
- 181 園長や主任との間で質問をしたり意見を交わしたりできるような、良好な関係を築いていますか
- 182 同僚との間で質問をしたり意見を交わしたりできるような、良好な関係を築いていますか
- 183 園長・主任などの指示や職員会議などでの結論が自分の意見と違うときも、それに従って気持ちよく協力していますか
- 184 同僚のそれぞれの役割と、あなたが果たすべき役割とを理解していますか
- 185 自分の保育実践について、園長や主任からの意見を、感情的にならずに受け止めることができますか
- 186 自分の実践について、同僚から意見を聞くように努めていますか
- 187 自分の実践の内容や意図を同僚にわかりやすく説明することができますか
- 188 園の内外における研修・研究活動に積極的に参加していますか
- 189 研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わるさまざまな知識や技能の向上に努めていますか
- 190 国や自治体の公刊物、インターネットなどで、保育関係の情報を収集するように心がけていますか
- 191 職務上知り得た子どもに関する情報について、たとえ自分の家族や友人にでも、話さないようにしていますか
- 192 あなたの保育に批判的な保護者に対しても、突き放さないで意見や要求を聞こうとする姿勢がもてますか
- 193 子どもの体調のすぐれない時など保護者へ電話をする際、その内容が保護者にどのように受け止められるのか考えていますか
- 194 自分の実践の内容や意図を、わかりやすく保護者に説明することができますか
- 195 事故や災害が生じた際の対処の方法について、マニュアルなどを通じて十分に理解していますか
- 196 事故や災害が発生した際に、きちんと対処できる自信がありますか
- 197 あなたの欠勤・遅刻・早退の際には、不在の際の準備や事後の確認などについて、責任をもって行っていますか
- 198 園の備品を、責任をもって管理していますか
- 199 施設・設備の安全に関する点検を、確実にしていますか
- 200 衛生管理に関する点検を、確実にしていますか